

(様式2(1))

事業所名 グループホーム希の丘

作成日: 令和元 年 7月 30日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35-17	法定の設備点検をしても、誤作動が起きる可能性があり、全職員にスプリンクラーや消防設備の取扱いを周知する必要がある。また、災害時などの緊急時の職員体制のルールや連絡網などの対応方法を明確にしておくという課題がある。	消防設備の取扱いを全職員が周知し、設備が作動した場合も冷静に対応できる体制が構築できる。また、災害時や、緊急時における職員体制や、連絡方法などをマニュアル化し、緊急時にも冷静に対応し入居者の安全性を高めることができる。	施設内での委員会に置いて、消防設備の場所や取扱いの方法を周知する研修を行う。設備や機器の取扱い方法をわかり易くマニュアル化する。また、台風や災害時の職員体制や連絡方法などをマニュアルにし、全職員に周知する。	12ヶ月
2	8-7	施設内で権利擁護に関する研修を3ヶ月毎に行い、施設内の意識をたかめる体制作りには取り組んでいるが、具体的な権利擁護制度である成年後見人制度や、行政のとりにくみについて詳細に知る研修は行われていない。	職員全体に「成年後見人制度」についてや、権利擁護事業に関する行政の取り組みについての研修を行い、職員一人一人の知識と意識の綱領に努める。	施設内の研修において、「成年後見人制度」や権利擁護事業に関する行政の取り組みについての研修を行う。	6ヶ月
3	4-3	運営推進会議において、第三者評価結果と目標達成計画を報告しているが、目標達成の進捗状況についての報告を行うことでより、目標達成にむけての取り組みが明確になるため改善が望まれる。	第三者評価結果と目標達成計画を運営推進会議にて報告するだけでなく、目標達成に向けての取り組み状況を報告することで、会議メンバーがより具体的に運営状況の把握ができるように努める。	運営推進会議において、第三者評価結果、目標達成計画、取り組みの進捗状況を報告し、会議メンバーとの間で、より具体的に意見交換ができる体制を構築する。	6ヶ月
4	2-2	所在地周辺が年齢層の若い世帯が多い新興住宅地にある環境から、古くからの地域住民のつながりが薄い特徴があるが、近隣に小学校があり子供たちとの交流できる可能性があるため、今後は地域交流が発展する可能性がある。	施設行事である「秋祭り」や地域住民参加イベントを企画し、より多くの近隣住民との交流を深めることができる。また、日々のお散歩や買い物などでの挨拶や談笑などの交流を通して、自然な形でグループホームの住民が地域と交流ができる。	日課であるお散歩や地域のスーパーに買い物に出かける中で、挨拶や声掛けを行い、地域住民との交流を図る。また、施設行事である「秋まつり」を企画開催し、地域住民との交流を深める。	12ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。